

原動力



俳優にとって最も大切な力は想像力だと思う。想像力があるから俳優は実在しない人物をあたかも実在している人物であるかのよう存在させることができる。車に喩えると、ガソリンに当たるのが想像力だと思う。ガソリンが入っていない車は発進できない。豊かな想像力こそが俳優がすぐれた演技をする上での最大の原動力である。

ところで、劇作家が何か戯曲を書くこととした時に、題材選びは言うまでもなく、その題材を作品にしようとする際に元になる感情というものは人それぞれだと思う。ある劇作家は何かに対する喜びを、ある劇作家は怒りを、ある劇作家は哀しみを、ある劇作家は楽しみを原動力に戯曲を書くように思う。わたしの知り合いに世界に対する怒りを原動力に戯曲を書く人がいるが、そんな人を見るにつけ、彼我（ひが）の違いを強く感じる。なぜなら、わたしは世界に対する怒りの感情を原動力に作品を書くことはほとんどないからである。わたしが戯曲を書く際に原動力となるのは、たぶんもっとポジティブな感情である。

怒りの感情を原動力に作品を書いてはいけないなどと言うつもりはまったくない。それがどんな感情を元に書かれようが、作品自体がよいものなら何も問題はない。それは劇作家の世界観の問題だからである。しかし、強いて持論を述べれば、ネガティブな感情を元に作られたものとポジティブな感情を元に作られたものでは、作品のポピュラリティ（大衆性）が違うように思う。だってそうではないか。いつも怒っている人よりは、いつも笑っている人の方が親しみ易いのはもの道理である。

高橋いさを

〈劇作家・演出家

ISAWO BOOKSTORE主宰〉